

第 17 回白河市地域公共交通活性化協議会概要

日 時	平成 29 年 4 月 17 日（月）午後 2 時 30 分～3 時 30 分
場 所	市役所本庁舎全員協議会室（4 階）
掲載資料	<p>○会議資料</p> <p>平成 28 年度事業報告について</p> <p>平成 28 年度収支決算について</p> <p>監査結果報告書</p> <p>平成 29 年度事業計画（案）について</p> <p>平成 29 年度収支予算（案）について</p> <p>白河市地域公共交通活性化協議会設置要綱</p>
<p>■内容</p> <p>《委嘱状交付式》</p> <p style="padding-left: 2em;">副市長より出席委員に対し委嘱状を交付</p> <p>《会議》</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p style="padding-left: 2em;">圓谷光昭会長（副市長）よりあいさつ</p> <p>（会議成立報告）</p> <p style="padding-left: 2em;">設置要綱第 9 条第 2 項の規定により、本日の会議に過半数となる 24 名の出席をいただいていることから、会議が成立していることを事務局より報告。</p> <p>3. 議事</p> <p>（1）議案第 1 号 副会長及び監事の選任について</p> <p style="padding-left: 2em;">設置要綱第 7 条第 3 項の規定により、委員の中から会長が指名。</p> <p style="padding-left: 4em;">副会長 吉岡 正彦氏（ふくしま自治研修センター 総括支援アドバイザー）</p> <p style="padding-left: 4em;">監 事 河野 敏夫氏（白河市町内会連合会 副会長）</p> <p style="padding-left: 4em;">監 事 安田 好伸氏（白河商工会議所 商業活性化委員長）</p> <p>→ <u>異議なし。議案第 1 号について承認</u></p> <p>（2）議案第 2 号 平成 28 年度事業報告について…P1・資料：こみねつと路線図・時刻表 平成 28 年度事業報告として、①地区巡回バス実証実験運行、②白河市循環バスダイヤ</p>	

改正及び大信地域自主運行バス運行経路の変更、③地域公共交通確保維持改善事業「生活交通確保維持改善計画」の申請、④白河市循環バス等ラッピング事業について事務局より説明。

(3) 議案第3号 平成28年度収支決算について…P3・P4

平成28年度白河市地域公共交通活性化協議会収支決算について事務局より説明。また、河野敏夫監事より、監査結果を報告。

→ 異議なし。議案第3号及び議案第4号について一括承認

(4) 議案第4号 平成29年度事業計画(案)について…P5・P6

平成29年度事業計画(案)として、①白河市循環バス日曜・祝日等試験運行、②循環バス1日乗車券試験販売、③白河市地域公共交通網形成計画の策定、④地域公共交通確保維持改善事業「生活交通確保維持改善計画」の申請、⑤白河市循環バス等ラッピング事業について事務局より説明。

(5) 議案第5号 平成29年度収支予算(案)について…P7

平成29年度白河市地域公共交通活性化協議会収支予算(案)について事務局より説明。

→ 異議なし。議案第4号及び議案第5号について一括承認

4. その他

○公共交通事業者の取組み紹介

・ジェイアールバス関東株式会社白河支店からの報告

① SLラッピングバス

ジェイアールバスは、白河と棚倉を結ぶ白棚線を運行している。もとの鉄道に代わって路線バスを運行するという日本でも珍しい貴重な路線である。本路線は、今年の4月26日で開業から60周年を迎えることから、少しでも多くの方に白棚線を広めるため、開業当時のSL型のラッピングをバスに施し、4月3日から運行している。おかげさまで、白河幼稚園が3回に分けて、白河駅から南湖公園まで白棚線をご利用いただいているほか、来月には、認定こども園さくらの木の園児にもご利用いただくことになっている。4月15日(土)、16日(日)には、ラッピングバスを活用して白棚線を知っていただこうと、桜の時期に合わせて小峰城と棚倉城を巡るツアーを実施し、参加者に大変喜んでいただいた。

② スマホ定期券

スマホでアプリをダウンロードし、その画面を乗務員に提示する定期券を発売。全国初の取組みである。地方では、定期券購入窓口が少なくなっており、利便性低下につながることから、アプリ開発会社と調整し、3月25日から販売を開始した。また、郵便振替による定期券購入も新たに実施している。

③ 定期券購入のクレジット決済

定期券購入の際の支払い方法は、従来現金のみの取り扱いであったが、新たにクレジットカードでの決済が可能となった。

今後とも、事業者として公共交通の活性化に努めてまいりたい。

・白河観光交通株式会社からの報告

地域の公共交通を研究している福島大学の吉田樹教授のゼミの学生より、タクシーより道きっぷの実証実験の依頼があった。バス停まで行けない方や、好きな時間に出掛けられないなどの状況があることから、公共交通にもっとタクシーが利用できないかという学生の提案により実施されることになった。より道きっぷは、病院などのついでに市内で買い物をして、またタクシーを利用して帰宅するもので、地域内の経済循環を高めることに寄与し、次の消費活動につなげようという学生の考えにより、このような取組みを試験的に実施したものである。市内全域を各小学校区にわけ、「行き→より道→帰り」を定額料金として、事前に切符を旅行会社が発券し、タクシー料金は旅行会社に請求するかたちを取らせていただいた。3月初旬から3月28日までと期間は短かったが試験的に実施。普段タクシーを利用している方、利用していない方、計50名をリストアップし、福島大学よりチラシと切符を配布し、のべ20名の方にご利用いただいた。現在、利用者へのアンケート調査等を実施しており、結果は市にも報告させていただく。福島大学のゼミの学生が修正点を練り直し、大学の予算内で、次はもっと大々的に期間も長く実証実験を実施したいとの話がきており、そうなると我が社だけでは対応が困難なため、他のタクシー会社にもご協力いただき、実証実験に取り組んでいきたいと考えている。詳細が決定した際には、また会議の席上でご報告させていただきたい。

○委員からの意見等

- ・循環バスは、現在、昭和町までが運行範囲となっているが、それよりもっと西側の真舟方面にも運行してほしいという町内会からの強い要望がある。今年度、市の公共交通のマスタープランを策定することとしているが、今後、基礎調査等を進める中で、そのような意見も勘案したうえで取り組んでいただきたい。(町内会連合会)

→ 循環バスは市民の足として定着してきており、ルート拡大や増便などの要望を受けることが多くなってきている。市民の皆さんの認識が高まってきており、大変ありがたいことであるが、路線を増やす等については、循環バス単独で考えるわけにはいかず、公共交通の全体の網の中で、どのようなネットワークをつくっていくのかを考えなければいけない。今年度、交通網形成計画を策定することが決まっているため、計画策定の中で市全体のネットワークをどのように構築していくかを考える中で、循環バスのあり方もあわせて検討していきたい。本協議会も5回程度開催し、計画策定の審議も予定しているため、その中で色々なご意見を頂戴したいと考えている。(事務局)

- ・現在、循環バスが中心となっているが、マスタープランを策定するには、一般路線

も含めた公共交通網ということよろしいか。(県南建設事務所)

→ 市内には、循環バスのほか、福島交通やジェイアールバス関東のバス路線、JR 東日本の鉄道もある。また、タクシーにおいてもネットワークが構築されるものであるため、そういったものをすべて合わせた上で、さらには、まちづくりの観点も加えた公共交通網を形成していくための計画を策定してまいりたいと考えている。(事務局)

5. 閉会